

**令和2年度**  
**第13回新川和江賞**  
～未来をひらく詩のコンクール～  
**表彰式**

**日時：令和3年2月14日（日）午後2時**  
**場所：結城市民情報センター 多目的ホール**  
**主催：結城市・結城市教育委員会**  
**（公財）結城市文化・スポーツ振興事業団**

## ごあいさつ

結城市は、結城家18代の城下町として栄えるとともに、ユネスコ無形文化遺産「結城紬」で知られる歴史と文化のまちです。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。そうした結城の子どもたちの才能を発掘し、伸ばしていきたいという、名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある詩人新川和江氏の思いが、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館5周年を迎えた平成20年度に、「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」という形で具現化されました。

このコンクールは、今年で第13回を迎えますが、これまでに24,486点のご応募をいただき、毎年素晴らしい作品が数多く生まれてまいりました。詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成、更には、新たな才能を発掘することを目的とするという趣旨は、詩を愛する関係各位のご尽力により脈々と受け継がれております。

本年度も、2,152点という多くの作品をご応募いただきました。今回も感性豊かな秀作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、入選を逃された皆様にも、ますます詩に関心を持たれ、これからも詩への興味を持ち続けていただくことを期待しております。

私は、子どもたちが秘めている可能性を開花させ、世界に羽ばたく人材になってほしい、そして、そのきっかけをつくってあげたいと考えております。子どもたちが、ここ結城でのびのびと育ち、大人になっても、結城で過ごした日々を忘れない。そうあってほしいと願っております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日をご過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

令和3年2月14日

結城市長 小林 栄

## ごあいさつ

結城市の小学生、中学生、高校生の皆様。今年度も「第13回新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」に2,152篇ものたくさんのすばらしい詩を応募してくださいまして、ありがとうございました。第一次審査で、詩人の関和代さん、山中和江さんが505作品を選んで下さいました。それをこころを集中させ何度もくり返し読みまして、受賞作品を選びました。受賞者の皆様、ご受賞おめでとうございました。

静かな部屋で、皆さんの作品を読んでいますと、いつの間にか皆さんの息づかいが聞こえてきます。皆さんのいのちのリズムのようにひびいてきます。こころがふるえます。皆さんといっしょに生きている、そのような感動をおぼえます。言葉はいのちなのですね。よい詩をたくさん読ませてくださってありがとう。

新川和江先生は、皆さんの詩には、理屈から入っていく詩には見られない、そのまま心に映った風景を大事にしているナイーブさがあって心を打つとおっしゃっています。そのようなこころをこれからも大切にしてください。

今年度の作品には、新型コロナの影響で学校がお休みになったことを書いた作品が多くありました。友だちと会えない悲しい気持ちを書いた詩のほかに、あたりまえの日々がどんなに大切か、そのような毎日のささやかなできごとがどんなにすばらしいことか、だから毎日を大切に生きようという大発見の詩、家族のすばらしさをあらためて発見した詩もたくさんありました。

また、中学生、高校生の詩もたくさんあってうれしくなりました。だれにも会えない日々に、自分から詩を書きたい気持ちになることがどんなにすばらしいことか、それに気づいた人たちもいることでしょう。どうかこれからも自分の秘密の創作ノートに詩を書き続けてください。

最後に、児童、生徒たちを詩に導いて下さいました先生方、保護者、市の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年2月14日

選考委員長 たけし 武子 かずゆき 和幸

## 次 第

日時 令和3年2月14日(日)  
午後2時  
場所 結城市民情報センター  
3F多目的ホール

### ●表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表彰
- 5 第13回受賞作品朗読
- 6 選考委員長による講評
- 7 閉式のことば

優秀賞（11名）  
新川和江賞（1名）

## ●受賞者氏名

### ☆新川和江賞（最優秀賞）

いいかおり	結城第二高等学校	1年	さかもと 坂本	ななみ 七海
-------	----------	----	------------	-----------

### ☆優 秀 賞

おじぎそう	山川小学校	1年	いしざき 石碕	ゆうか 優花
-------	-------	----	------------	-----------

うさぎ	上山川小学校	1年	すとう 須藤	かえで 楓
-----	--------	----	-----------	----------

いのち	江川南小学校	2年	たての 館野	ゆりあ 結莉愛
-----	--------	----	-----------	------------

きぬ川小のピオトープ	絹川小学校	3年	はまの 濱野	りゅうのすけ 龍之介
------------	-------	----	-----------	---------------

夏の音	山川小学校	3年	いのほら 猪ノ原	らん 蘭
-----	-------	----	-------------	---------

おぼん	城西小学校	3年	やまなか 山中	ちひろ 千博
-----	-------	----	------------	-----------

何気ない言葉	江川北小学校	6年	たかはし 高橋	まお 愛桜
--------	--------	----	------------	----------

一年前	結城中学校	1年	なかやま 中山	さほ 咲穂
-----	-------	----	------------	----------

落書き	結城南中学校	1年	ますだ 増田	なつき 奈津樹
-----	--------	----	-----------	------------

雲	結城東中学校	1年	たなか 田中	しの 詩乃
---	--------	----	-----------	----------

夏の夜	結城中学校	3年	もりた 森田	のあ 乃愛
-----	-------	----	-----------	----------

☆優良賞

とまと

絹川小学校 1年 おおくま 大熊 りゅうのすけ 隆之介

ぼくのトカゲ

山川小学校 3年 てやま 出山 ようた 陽太

あさのおさんぽ

絹川小学校 1年 やしま 谷島 れあ 怜杏

弟

城西小学校 3年 とくのう 得能 しおり 詩織

たのしいながしそうめん

上山川小学校 1年 あいざわ 會澤 まさひろ 将洋

かぶと虫

城南小学校 4年 いたばし 板橋 ともき 朋生

おいしそうなにじ

上山川小学校 2年 たかしま 高嶋 さや 沙弥

ステイホーム

山川小学校 4年 ながい 永井 りくと 陸斗

まゆげがまもってくれない

城西小学校 2年 くどう 工藤 しんいちろう 慎一郎

二人のおばあちゃん

結城西小学校 4年 おおの 大野 あいり 愛莉

チャーマ

結城小学校 3年 まきの 牧野 あおい 蒼

農家

城西小学校 4年 いなば 稲葉 ゆづき 柚月

ひいばあの星

江川南小学校 3年 すずき 鈴木 あみ 杏実

魔法の手紙

結城小学校 5年 うめやま 梅山 ことみ 琴未

ハムスターのほっぺ

山川小学校 3年 いの 猪野 まきと 真斗

空

江川北小学校 5年 じんの 陣野 かほ 華帆

☆優良賞

夏休みの夜ふかし

結城西小学校 5年 平田 穂

カラフル

結城東中学校 2年 服部 希乃花

タンポポ

城南小学校 6年 松浦 柚杏

風の知らせ

結城中学校 3年 山中 ひろと

のら犬と私

絹川小学校 6年 大島 由衣

ひいおばあちゃんの声

結城南中学校 3年 伊藤 美空

思い出の球場

江川北小学校 6年 齋藤 宏介

夏と私

結城南中学校 3年 岩岡 ひなの

私のぐらぐらの歯

江川南小学校 6年 柳田 杏

夜明け

結城南中学校 3年 高野 ななみ

お弁当は宝箱

城西小学校 6年 齋藤 ももか

人間の目にうつるもの

結城東中学校 3年 香林 ひでき

勿忘草

結城中学校 2年 大森 雪乃

私の<sup>こせい</sup>痛み

結城第二高等学校 1年 木代 きしろ ゆらん

一瞬

結城中学校 2年 高木 はると

私ができること

結城第二高等学校 1年 橋本 はしもと かやの 華弥乃

ことばはいつ 詩となるのであろう  
猿に噛みくだかれた木の実は  
むろの中で年月を経て酒となるように  
夜ふけに草をしめらせたり露が  
あけがた葉末で玉となるように

新川和子 2



## ●受賞作品

### 新川和江賞

#### いいかおり

結城第二高等学校 一年 坂本 七海

夕方、家に帰る途中に

夕焼け小焼けのメロディーが聞こえる

なんだか早く家族に会いたくなって

歩く速度を速める

今日の夕飯はなんだろうとか考えながら

家のドアを開けると

お腹が減るいい香りがして

私の「ただいま」と

母の「おかえり」の声が重なる

もう匂いで分かっているのに

「今日の夕飯は何？」

とか聞いちゃったりして

特別、裕福な家庭ではないけど

この生活が大好きで幸せ

#### 短評 新川和江賞「いいかおり」

夕方になると「夕焼け小焼け」のメロディーが町に流れるのですね。それを聞くことも家が恋しくなります。台所で温かい夕飯を作っているお母さんの姿。七海さんもそうなのです。賑やかな家族と明るい居間。夕飯の匂い。お腹がクーンと鳴って急いでドアを開けて「ただいま」と言うと同時にお母さんの「おかえり」。心が通い合っているね。匂いから夕飯が何か分かっているのに、夕飯は何と聞いたりして。気の合った賑やかな家族の姿がもうたまらない。何よりもこの詩が素晴らしいのは、七海さんの鋭刺とした息遣いが、詩の言葉から聞こえてくることです。生き生きとした生活の実感が溢れ出ていることです。心の底から言葉が生まれてきたので、詩が生きているのです。最後の二行がぐっと胸に響きました。



## 優秀賞

### いっしょ

上山川小学校 一年 須藤 楓

おおきなみみでなにをきいているんだらう  
くりくりおめでなにをみているんだらう  
もふもふしたけがあたりかそう

やわらかそう

わたがしみたい

わわってみるとそっとどろどろとあげたくなる

やさしいきもちになる

わたしがうさぎになったら

おおきなみみでたくさんのじぶんたちの

おしゃべりをきこじ

くりくりおめでわたしよりも

すっとすっとちいさいおともだちをみつけよう

ぴょんぴょんとたかくとびはねよう

わたがしみたいなもふもふもまわ

とどろきよう

### 短評 優秀賞「いっしょ」

おおきなみみ。くりくりしたため。もふもふしたけ。もうそれだけで  
かわいらさきなんがめのまえにあらわれますよ。まほうみたいす  
ね。かえでさんは、もふもふしたけがだいすきなんだね。わたしもだ  
いすきです。まもちちゃんて、あたたくかくとどろきでもすいこまれ  
そう。だいたいだよってだきめたくなりますね。かえでさんのだ  
すきなうさぎさんになって、たくさんのおともだちとなかよくして、  
ぴょんととびあなつて、おそろいのもふもふもまわななよしになわ  
るといっしょ。あ。うさぎさんのもふもふしたけのよじり、まもちのよじ  
りです。

## 優秀賞

### いのち

江川南小学校 二年 舘野 結莉愛

人が生まれるといのちも生まれるの  
人がなくなるといのちもきえるの

いのちはじいじもういじいじも  
生きているからいのちはういじいじも

こんちゅうもびゅうぶつもすべていのちが  
あるんだよ

いのちはなに色なんだろう

いのちの音はどうして聞こえるの

「ドクドク・ドクドク」音がするよ

ゆっくういじいだろ

はやういじいだろ

どうしてすきな人といるといふときも  
どうしてすきな人といふときも

あかちゃんといのちは小さいのかな  
おとなといのちは大きいのかな

小さくても大きくてもたいせつないのち

たいせつな人のいのちがなくなったらとても  
さびしんだよ

「そうだよ」

みんなたいせつないのちだからね

### 短評 優秀賞「いのち」

ゆりあさんの詩をよんで、わたしもいのちってなんだろうとかんが  
えました。そのようにたいせつなことをかんがえさせるのは詩で  
すね。からだが生まれるといのちも生まれ、生きていくからいのちが  
うごき、すべての生き物にもいのちがあって、ドクドクと音がし、す  
きな人といると、もっとドクドクする。からだとは入ったもの、よう  
でありながら、からだひとつのよう、気持ちひとつのよう、な  
ものでありながら、気持ちのひとつ。いのちがなくなるといふことも  
いっしょにいのちのいきがなくなるといふこともいっしょに。い  
つだとかんがえますね。

## 優秀賞

### きぬ川小のビオトープ

絹川小学校 三年 濱野 龍之介

朝、学校へ行くと

スイレンの花がさいている

カエルが元気に

鳴いている

タニシはのんびり

うごいてる

メダカはむれで

およいでいる

ぼくがつれてきたメダカは

どこにかくれているのかな

少しゆれてるがまに

トンボがとまって休んでいる

今日もいつもと同じだけ

ぼくは、ここが大すきだ

### 短評 「優秀賞」きぬ川小のビオトープ

きぬ川小にビオトープがあるのはすてきですね。いろいろな小動物が自然のままに生活しているのがかんさつできて、うらやましいな。龍之介くんは、毎朝学校に行って、それを見るのが楽しみなんだ。スイレンの花が咲いたかなとか、カエルは元気かなとか、タニシがゆっくりにうごいているのを見たり。じゅぎょうにおくれないだね。龍之介くんのつれてきたメダカが元気かどうかも気になるね。がまにトンボがゆれている。しずかで時間がとまってしまったようだ。龍之介くんは「今日もいつもと同じだけ」と言っていますが、そこにはホッとした気持ちがあるんだね。変わってしまうほど悲しくておそろしいことはないからね。このうつくしい自然がいつまでもつづきますように。

## 優秀賞

### 夏の音

山川小学校 三年 猪ノ原 蘭

チリンチリンチリン

チリンチリンチリン夏の風にさわわれて、  
やさしくユラユラゆれている。風の音。  
アイスを食べながら、「コロコロとねそべって  
チリンチリンと風りんの音がひびく。

その後ろから、風りんの音をかきけすように  
チーンチーンチーン  
チーンチーンチーンチーン

とセミのいきおいのある鳴き声がかたかな。  
「待ってましたー！」

といつせいに鳴き出すセミの声は、夏のあつ  
さを強くさせる。きつと一生けんめいこの  
ちがけで鳴くからだ。夏の間だけの短いき間  
セミはひっそりに鳴き続ける。だから、いつも  
はく力ある声がひびくのだろう。高い木にと  
まり、セミの声は、遠くのあの空までとどいて  
いるのだろうか？お気に入りのあの子に、  
ちゃんと声はとどいたのだろうか？

夏の終わりが近づいて、いつの間にかセミの  
声もなくなり、外がしずかになったころ。ふ  
と気づくと足元には、木から落ち道端にころ

がっているセミがいる。

つんつんとぼつとやわしくつんつんみんじ、  
かすかに動いている。そんなかっこいいお  
空が見えているのだろうか？さい後の力をぶ  
りしぼり、羽をバタバタさせて鳴かせ。も  
うとどびたいのだろうか？

夏の音は、やさしい音も強い音もあるけれど  
なんだか少し切ない音もあるんだな

### 短評 優秀賞「夏の音」

じつと耳をすますと、いろいろな音が聞こえてくるのだね。蘭は、それらの音の中で、セミの鳴き声に心を向けました。夏が来て「待ってましたー！」とばかりいそいそと鳴き出すセミ。短いき間ひっそりに鳴き続ける「セミ」。なとつとあつた観察眼で、蘭さんは、そこに生き物の強い生命力を聞こえているのだね。そして夏が終わりに、しずかになり、ふと気がつくセミが道端にころころと、最後の力で羽をバタバタさせている。蘭さんは、移り変わる夏の音の、中で、生命のやわさき、はげさき、悲しさを見しめられたのだね。おそろしくセミをとおして私たちのいのちもみつめていたのだよ。

## 優秀賞

おぼん

城西小学校 三年 山中 千博

むかえ火

ちようちんに火をともし

火がきえないように、ゆっくり

そろーり そろーり 歩く

ご先ぞ様をつれて帰ってきた

ぼくには見えない

ひいじいちゃんも、ひいばあちゃんも

でも、ぶつだんのしゃしんを見て

「お帰りなさい」

と、つぶやいた

線こうをあげると、かおりが

家中をかけめぐる

三ぱく四日だって

家族で、ひいばあちゃんの話をした

ひいばあちゃんと糸つむぎ

ひいばあちゃんとせんそう

ひいばあちゃんと遊んだこと

送り火

火をともしたちようちんを

はかばに持って行った

火がきえないように、ゆっくり

そろーり そろーり 歩く

線こうをあげると、かおりが  
ゆっくりと、空へ登っていった  
ご先ぞ様は帰って行った  
なすで作った牛ののって  
今年、こちらのせかいはどうでしたか

## 短評 優秀賞「おぼん」

「おぼん」には、「ご先祖さまがお帰りになるので、門前にむかえ火をたいておむかえする。」とそろーり そろーり 歩く。「ご先祖さまをおつれする千博さんのきんちようした姿が目につかびます。三ぱく四日のおとまりなんて、ひいじいちゃんといひいばあちゃんの旅行のおもむぎ。ほほえましいね。いろいろ思い出話に花が咲いて。いいなあ、じうじうのって。そして目にはあつとじうまにすぎて、お帰りの。送り火をたいて、また「そろーり そろーり」。「ゆっくりと線こうのかおりが空へのぼり、「ご先祖さまの乗るなすの牛の姿が遠ぶかる。いいなあ。」「こちらのせかいはどうでしたか」とたすねる千博さんのことばは、遠いご先祖さまへの「あいさつの手紙のよう。」

## 優秀賞

### 何気ない言葉

江川北小学校 六年 高橋 愛桜

何も考えていなかった  
何も思わなかった  
何気なく言った言葉で  
誰かを傷つけている  
何気なく言った言葉が  
誰かの未来をなくしてしまう  
言葉ってすごい  
何気なく言った言葉で  
誰かが救われる  
何気なく言った言葉が  
誰かの未来を明るくする  
言葉って素晴らしい  
何気ない言葉で  
誰かの救いになりたい  
何気ない言葉で  
誰かを笑顔にしてあげたい  
何気なく素晴らしい言葉で  
私は強くなりたい

### 短評 優秀賞「何気ない言葉」

たぶん愛桜さんは、何気なく言った言葉で傷ついたり、はげまされたりしたことがあったのだですね。それまではそのような言葉の動きについて考えもしなかったのに、そのような経験から深く考えるようになった。愛桜さんのこのころの成長がよくあらわされている詩です。言葉によって未来をなくしてしまったり、明るくしたり、救われたり、誰かを笑顔にしたり、言葉って使いようによっては恐ろしいし、まだすばらしい。だから何気なくではなく、「井やかなこころづかいで使いたいということに気づいたのだですね。言葉への愛情、こころづかいには、まわりの人々への愛情、こころづかいと一緒にありますね。」



## 優秀賞

### 一年前

結城中学校 一年 中山 咲穂

一年前

近いようで遠い過去

同じ日々をくり返し  
いつになにがあったのか  
なにもないただの日は  
思い出すのも難しい

なにもないのは  
不幸せなのか  
なにもないのは  
幸せなのか

嬉しいことより  
辛いことを

人は覚えているのなら  
一年前のことですか  
思い出せないのは  
きっと幸せなことなのだろう

一年前

近いようで遠い過去

平穏な日々のくり返し  
幸せだとは気づかない  
穏やかな日々には囲まれて  
今日もなにもなかったと  
ため息ついて  
無自覚に幸せな日を終える

### 短評 優秀賞「一年前」

咲穂さんは、日々の生活を深く考えているんですね。「一年前」というのはあっという間に過ぎた時間のようであり、もう戻らない遠い過去のようにも感じ、だから近くて遠いのですが、ただその一年が、くり返しだけのなにもない平穏に見える日々だとしたら、それは幸せなのか不幸せなのかと自分自身に問いかけていますね。「今日もなにもなかったと」ため息ついて「無自覚に幸せな日を終える」という詩行は、逆に言うと、生きるとは何かと真剣に考えながら、自覚的に生きていきたいという深い意味を表しているように思います。

## 優秀賞

### 落書き

結城南中学校 一年 増田 奈津樹

毛布を頭までかぶって留守番をしていた  
冬休みの昼  
特にやる事もなくひまだった

私は窓に向かって息を吐いた  
ふわぁ〜と  
白くもった

私は窓に落書きをした  
ネコをかいた

「つまんないなあ〜」

「あ！そうだ!!」

私は二段ベッドの柵から懐中電灯を取ると  
机の上にあった自由帳から  
紙を2枚やぶった  
くるくる巻いてテープでとめ

それを懐中電灯に  
ペタッとつけた

それを持って窓に向かった  
窓を開けると

ひんやりとした空気がとびこんできた  
はながツンとして息も白くなっていた  
懐中電灯を外から当ててスイッチをつけた

「やっぱの!!」  
昼間だけ夜のネコが出てきた  
目が光っている  
楽しくなっらずと笑った

笑ったからか  
とってもボカボカしていた

### 短評 「優秀賞」落書き

楽しい詩ですね。留守番の家にはだれもいない。やることもなく、のんびり。自由ですね。こころものびのびと広がって、窓にネコを描いてもなぜか物足りなく、そのような時、素晴らしいアイデアが生まれました。私も真似をしてやってみました。懐中電灯に新聞紙をくるくるとまいて、スイッチを付けてのぞくと、夜のネコの目が光った。じっと見ていたら、目が痛くなりましたが、不思議な感じでした。「夜のネコ」って神秘的ですね。

## 優秀賞

### 雲

結城東中学校 一年 田中 詩乃

無限に広がる青空の中にぽつんと一つの雲はいた

そこで僕は思った

雲という物は子供なのだろうと

はてしなく広い親の空の中の子供なのだろうと

僕は思ったまだ子供のままだから天気をくずすのだろう

怒った時には雷ないた時には雨笑った時には

雪をふらす

きつと青空の親が雲をねかして晴れにしているのだろう

でも青空だけじゃ生きものは生きていけない

雲という小さなものの一つで僕たちは生きて

いけるのだろう

この小さな僕は今日も雲を見る

### 短評 「優秀賞」雲

果てしなく広がる青空の中にぽつんと浮かぶ小さな雲をながめながら、詩乃さんは楽しい想像をくり広げています。雲をながめていると、人は詩人になるのですね。詩乃さんは、空をお母さん、雲を赤ちゃんと見立てているようです。怒れば雷、泣けば雨、笑えば雪、眠れば晴れ。まさに青空のお母さんの胸に抱かれた無邪気な赤ちゃん。こうした青空と雲との愛情の関係のように、人間も生きていくということ。詩乃さんは発見します。想像は発見ですね。

## 優秀賞

### 夏の夜

結城中学校 三年 森田 乃愛

そこにあるのは  
歯磨きの音と  
窓に集まる蛾だけ

これ以上近づけないのに  
ただ光に集まる蛾  
哀れで  
なぜか腹が立って  
窓に何度も爪弾きをした

そこにあるのは  
窓がコツコツ鳴る音と  
窓に集まる蛾だけ

音なんて気にせず  
目の前の光が月明りだと信じて  
ただ光に集まる蛾  
哀れで  
心が苦しくなって  
パチンと電気を消した

### 短評 「優秀賞」夏の夜

「そこにあるのは」という書き出しが凄い。乃愛さんが、目の前にある対象をしっかりと見つめて捕らえようとする意志が感じられるからです。歯磨きの音も蛾の羽ばたく音も、物のようにしっかりと感じ取っています。しんと静まりかえった窓辺に、蛾の羽音と乃愛さんが爪で窓をはじく音がいっそう大きく響きます。それでも窓の明かりを月の光と信じて集まる蛾を哀れと思っ乃愛さん。それは乃愛さんのことを映しているのかもしれない。屈かない思いをせつなく求める若者の気持かもしれない。思わず電気を消してしまう気持が痛いほど分かります。

どこかで  
新川和江

ゴッポのばらが ひらきました

ちよとどへ

世界のどこかで

ふとむが ふふふ と竹ちうたかうです

それいながが かかりました

ちよとどへ

世界のどこかで

ふとむが うたを うたうたかうです

小鳥がほっととびまうました

ゆれている枝

世界のどこかで

ふとむが いまなり わけあしたかうです

優良賞

じまじ

絹川小学校 一年 大熊 隆之介

ばあちゃんが  
「たべたいなあ」  
っていったから  
とまとをひとつうえたよ

あかいとまと  
いっぱいできたけど  
たべられないね

ばあちゃんが  
「だいすき」  
っていったから  
とまとをもうひとつうえたよ

ほら きいろいとまと  
たくさんできたけど  
もうたべないんだね

ぼくは とまとが  
すきじゃないけれど  
あかいのと きいろいの  
かごいっぱいにできたから  
ぼくがたべるね

あまくてすっぱい  
ばあちゃんが  
だいすきなとまと  
おそらのうえで  
たくさんたべてね

優良賞

あそのおさんぽ

絹川小学校 一年 谷島 怜杏

なつやすみになって、おじいちゃんとおばあ  
ちゃんとあそおさんぽいそいそいした。

あそそとにいったときそらがあさがおの  
いろだった。

はっぱのかたちがむしのかたちだった。

はなもいっぱいあった。ねこもいた。

こうえんみたいにあそぶものがあつた。

いったのはかなくぼうんどうこうえんだった。

まだたいようがでてなかったから、きがつか  
なかつた。

いぬのさんぽをしてる人もいたりいろんな  
人があるいていた。

みんなはやおきだね。わたしはつかれました。

たのしいながしそうめん

上山川小学校 一年 會澤 将洋

「やあーくん」

ママのこえをあいすじ、

あか・しろ、みどりのかららびるなそうめんが

ピュウっとながれてきた。

「あれれ」

おはしのあいだから、

つかんだはずのそうめんが、

すすすするとにげていった。

「しぎはフォークだ！」

こんどはつかまえるぞ。

ながれてくるそうめんは

グサリ！

「やったー！」

ちゅるちゅるちゅるちゅる。

がんばったあつだから

らじもよのおいしくかんじたよ。

おいしそうないじ

上山川小学校 二年 高嶋 沙弥

いじを見ているとおいしそうになっちゃう。

赤色は、トマトなのかな。トマトは、大きい

よりは、小さいのがすきだな。

オレンジは、みかんなのかな。みかんは、

すっぱいのよりあまいのがすきだな。

黄色は、バナナなのかな。バナナにチョコを

かけたらおいしそうだな。

みどりの色はレタスなのかな。レタスはドレッシ

ングをかけるとおいしそうだな。

青色は、ソーダかな。ソーダは、上にアイス

をのせるとおいしそうだな。

あい色は、なすかな。なすは、やいてたべる

とおいしそうだな。

むらさき色は、ぶどうかな。ぶどうはまあまあ

てあまへておいしそうだな。

いじはおいしく見られるかな。

まゆげがまもってくれない

城西小学校 二年 工藤 慎一朗

しつしつと...

まゆげのやぐわらってね

かおをまもることなんだよ

お風呂で頭をあらっていたとき

あわがかおにむかってせめこんで来た

でもだいじょうぶ

まゆげがまもってくねるからね

そう思っていたのに

おかしいな

目にあわがたくさん入ってきた

ぼくはさげんだ

「まゆげがまもってくれないー!」

ぼくのかおをまもってくねるんでしょ

がんばれまゆげ

ぼくのマゆげ

ぼくのかおをまもってくね

チャーマ

結城小学校 三年 牧野 蒼

チャーマが作るラーメンは日本一!

チャーマが作るコーンスープは最高!!

チャーマが作るお料理は、なんでもおいしい。

チャーマはおさいほうも得意。

チャーマは習字も上手。

チャーマは、ぼくの自まんの、天下無敵の

スーパーおばあちゃんだ。

だけど今は、病気でずっとベッドの上。

ぼくがお水をのませてあげたり、手をなでて

あげたりしている。

早く元気になって、また、家族みんなで

トランプしようね。

それまでぼくが、毎日、スーパー孫パワーを

とどけるからね。

チャーマ、ありがとう!

チャーマ、大好きだよ!!



## ひいばあめの星

江川南小学校 三年 鈴木 杏実

ひいばあは、星になったの  
ママが言ったよ  
いのちがおわった人は、みんな星になるんだって。  
そして、みんなをお空からみまもってくれて  
いるんだって。  
大空のたくさん星たちは、たいせつな人たちを  
ずっとみているらしい。  
ひいばあは星はどこだろう。  
あの子は大きなひかっている星だと思っただ。  
だってひいばあはわらった顔みたいかがやいて  
いるんだもの。  
ひいばあ、わたし本をたくさんよんでるよ。  
弟のめんどうもみてるよ。  
ひいばあは星は、うれしそうにひかっているよ。  
ひいばあ みんなげんきでいるから安心してね。  
ずっとずっとわたしたちを見ていてね。  
こんやもわたしはひいばあは星におはなします。

## ハムスターのほっぺ

山川小学校 三年 猪野 真斗

ハムスターのほっぺは とってもものびる  
エサをあげると  
一つぶずつかんで  
どんどん口にはじぶ  
一つぶ一つぶ一つぶ四つぶ…  
まだまだはいるぞ  
八つぶ九つぶ十つぶ  
ハムスターの手はとまらない  
ハムスターのほっぺは  
まるでミニとまごが二つはいつているみたいに  
パンパンになった  
パンパンになったほっぺで  
すまでのせまい通ろをとおって  
すの中で全部をだす  
するとほっぺは元通り  
ハムスターのほっぺは風船みたいだ

ぼくのトカゲ

山川小学校 三年 出山 陽太

今日もおはよう

ぼくはこしもおそろいのへ

やっぴりな

大すきな岩の上で日なたぼっこぼくもそと

のんびりしてみたい

やっぴりな虫をぼくはたへてるお井の

小さなまきょうりゅうみたい水も上手このんで

虫ってどんな味がするのかな

なんでなんでしっぽをさわったらしっぽが

切れちゃったすこしかわいそうだったけどそと

しておいた三日後ぼくはおそろいた切れたしっぽが

元にもどって

トカゲって見ているだけでおもしろい。

弟

城西小学校 三年 得能 詩織

朝、おはよう、

「しーちゃん、しーちゃん、おきたの。」

服を着てるよ、

「しーちゃん、しーちゃん、どねにするの。」

朝ごはんを食べているよ、

「しーちゃん、しーちゃん、何食入ってるの。」

風は吹いてるよ、

「しーちゃん、しーちゃん、おきてよ。」

遊んでいるよ、

「しーちゃん、しーちゃん、いわいて。」

お風呂に入ってるよ、

「しーちゃんしーちゃん、一しよに入ろう。」

歯をみがいているよ、

「しーちゃん、しーちゃん、ぼくもみがへ。」

夜、ねようよするよ、

「しーちゃん、しーちゃん、しーちゃんねよ。」

しーちゃん、しーちゃん、しーちゃん

## 優良賞

### かぶと虫

城南小学校 四年 板橋 朋生

はじめまして  
今日から、ぼくがきみを育てるよ  
まるで黒曜石のように  
ピカピカしたかぶと虫  
虫かごの中で元気に動いている  
かわいい  
かわいい  
ぼくの顔はここにこ笑顔  
かぶと虫さんも笑ってるかな  
ずっと、ずっと見ていたら  
かぶと虫さん  
虫かごカリカリ  
ガリガリ  
外に出して  
ぼくには、そう言ってるように見えた  
かぶと虫さんが泣いている  
ぼくは、小さな命を  
虫かごとじこめてしまった  
そう思った  
かぶと虫さんごめんなさい  
外に出してあげるよ  
ぼくは、大きな木の下に  
かぶと虫さんをそっとおいた  
かぶと虫さんは空へ飛んだ  
広い空へ飛んだ  
良かった、出してあげて良かった  
ぼくは、ほっとした  
かぶと虫さんごめんね  
かぶと虫さんありがとう

## 優良賞

### ステイホーム

山川小学校 四年 永井 陸斗

ぼくの家が学校になった。  
ぼくの家が遊び場になった。  
ぼくの家がお父さんの仕事場になった。  
家の中で何をしよう。  
ガリガリ、ガリガリ勉強だ。  
ワーワーワー、弟と遊んだり  
ムシヤムシヤムシヤごはんを食べたり。  
お父さんにパソコンをかりて、インターネット  
もした。  
インターネットは、いろいろなところと  
つながっている。  
ぼくが好きなゲームの人たちと。  
お父さんのしょく場の人たちと。  
行ったことのない世界の人たちとも。  
そのトンネルをずっとぬけて、ぼくはたくさん  
のことを知り、たくさんのところへ行ける。  
ぼくの世界が少し広がった気がする。  
さあ、学校が始まる。  
インターネットで会った人たちも良かったけれど。  
久しぶりに友達に会おう。  
それが楽しみでしようがない。

## 優良賞

### 二人のおばあちゃん

結城西小学校 四年 大野 愛莉

今年もお盆の時期がやってきた  
二人のおばあちゃんに会いに行く

父方のおばあちゃんはとても元気な人  
遊びに行くとお菓子をくれる  
一緒にお買い物入行ってくれる  
とても優しいおばあちゃん

母方のおばあちゃんはとても静かな人  
そんなおばあちゃんに  
私はお花を持っていく  
手を合わせて心の中で会話する  
写真で見るおばあちゃんは  
私の母より若くて笑顔がとてもかわいい  
私が生まれるずっと前に天国へ行ってしま  
ったから  
声を聞いたことがないけれど  
きっと母に似ているだろう

「また来るね。」  
私は大きく手をふった  
季節が変わるころ  
また会いに行こう

## 優良賞

### 農家

城西小学校 四年 稲葉 柚月

お父さん、お母さん、おじいちゃん、  
おばあちゃん、家に帰って来ると土のにおい、太陽  
のにおい、あせのにおい。

毎日一生けんめい野菜たちを育てている。

みんなの手は真っ黒にやけていて土がついて  
いる。わたしは少しいやな気分になる。

おいしい野菜がタはんにごでくる。あまくて、  
やわらかくて、みずみずしい。

こんな野菜を作っている家族はやっぱりすごい。

土のにおい、太陽のにおい、あせのにおい、  
手は真っ黒、土だらけだけど、えいようまんてん  
野菜たちを育てているわたしの家族は  
やっぱりすごい。

## 優良賞

### 魔法の手紙

結城小学校 五年 梅山 琴未

今日は金曜日。  
何気に楽しみな金曜日。  
なぜかって？

それはね…。

先生が私達みんなに手紙を書いてくれる日だから  
先生は、ニュースの事、自分の事、つらかった事、  
うれしかった事、悲しかった事、  
楽しかった事。

そして、私達をたくさんほめてくれるし、  
たくさんはげましてくれる。  
私達が気付かないような事も気付いてくれる。  
たまに注意もされるけどね。

読むと、元気になるし、やる気もでる。  
魔法の手紙なの。

私もいつか魔法の手紙が書ける人になりたいな。

先生、いつもお手紙ありがとう。  
また金曜日を楽しみにしてるね。

## 優良賞

### 空

江川北小学校 五年 陣野 華帆

朝の空は、青くてきれい  
雲の形がいろいろあってとってもすてき  
たくさん鳥がとんでいてみんななかよくして  
るみたい。

昼の空は、平和みたい  
でも少しだけ、たいくつそう

太陽がてっぺんにいるからとってもめだつ

夜の空はとっても暗い

鳥は巣に帰っていて

しーんとだれもないみたい

本当はこうもりとんでるよ

星がとっても光ってる

今日も平和だったな

明日も平和かな

優良賞

夏休みの夜ふかし

結城西小学校 五年 平田 粹

一日目

ねちゃった

二日目

かみなりで雲が夜空をかくしてた

ペルセウス座流星群がみたいのに

三日目

雲はあるけど風もある

見れるかな

首がいたい

でも、見のがしたくないからがまん

流れ星!!

右はじで流れた十センチの流れ星

ねがい事を言いたかったのに

「あ!!」

しか言えなかった

わたしのねがい事

「あ!!」じゃないのに…

いつきに十こ流れないかな

まん中で強く光った流れ星

たくさんの方の願い事がかないそう

願い事、かないますように

優良賞

タンポポ

城南小学校 六年 松浦 柚杏

風にフーッと息を吹かれた

タンポポの綿毛が

空をまいおどるように飛んでいく

土に根をはったタンポポは

春になるまでじーっと待っている

春に咲いたタンポポは

ふまれても

ぬかれても

こりずに何度も生えてくる

私もタンポポのように

ざせつに合ってもこりずに

何度でも立ち向かう強い人間になりたい

庭で草むしりをする母が

今日もタンポポを見つけて

フーっとため息をついた

## 優良賞

### のら犬と私

絹川小学校 六年 大島 由衣

外に出ると遠くのほうにのら犬がいました

見つめてたら

おいけてきたんだ

いそいで家の中に入ったんだ

まどの外を見るとまだあの犬いたんだよね

また目があっちゃったんだ

だからその日は

あんまり外に出ないようにしてたんだ

車で外にでるとまだ犬がいて

じっと見つめてたんだ

## 優良賞

### 思い出の球場

江川北小学校 六年 齋藤 宏介

三つ違いの兄が野球を始めた

その日から球場に行くようになった

兄が野球の練習をしているのを見ていた

兄や先ばい達のように

野球が上手になりたいと思った

三年がたちぼくは一年生になった

直後野球を始めた

暑い時も寒い時も練習をがんばった

野球を始めてから五年がたった

取れなかったボールが取れる様になった

打てなかったけど打てる様になった

楽しい時も苦しい時も

見守ってくれていた

ぼくが成長出来た場所

忘れないよ

球場で得た物はぼくの宝

本当にありがとう

優良賞

私のへらへらの歯

江川南小学校 六年 柳田 杏

歯みがきの時に見つけて、鏡で確かめました  
ご飯や固い物を食べる時は、特に気になります  
気付けば舌でさわって、歯ぶらしですつついて  
います

へらへらの歯 私のへらへらの歯は上の  
おく歯です

気になる私のへらへらの歯

七夕のころから 夏休みに入っても 十才の  
弟のおく歯が先にぬけても 長かった梅雨が  
やっと明けても さいていたひまわりが種を  
かかえて背中を丸めても

まだかな、まだぬけない 私のへらへらの歯  
あ、また歯みがきで出血です

少し欠けたりもしましたが まだぬけそうに  
ありません

もう少ししたらえんの下にお別れです

私のへらへらの歯

優良賞

お弁当は宝箱

城西小学校 六年 斎藤 百々花

ふたを開けた瞬間

色とりどりの主役達が顔を出す

ハンバーグ

焦げ目から、ジュージューと焼いている

にぎやかな音

ウインナー

母の入れた編み目模様が、おしゃれで自信

満々

ゆで卵

太陽みたいに、まん丸く明るくパッと、

まわりを照らす。

おにぎり

つやつやと輝く、白い肌が光っている

衣装の海苔が、海の香りを教えてくれる

みんな主役

私の空腹を満たしてくれる、

愛情と栄養たっぷりのお弁当

「いただきます。」



## 優良賞

### 勿忘草

結城中学校 二年 大森 雪乃

新しい季節に胸を膨らませ  
深呼吸をしたその空は  
白縹のワンピースで微笑む君に  
なんとなく似ている気がして  
少し  
さみしくて

はしゃぎ声を見守り  
金春色の水しぶきをきらめかせる  
元気な天色の空に

ふと  
明るい君の笑顔が映ったような気がして  
思わず探してしまう

ひとりで考え事をしていて  
君に呼ばれた気がして  
み空色に導かれるように  
あの場所へ行く  
ひらりと舞い落ちたのは  
君が好きだった紅葉だった

街が青白磁に包まれると  
君との別れを思い出す  
もういないと分かっているのに  
桃花色の様に優しくかった君を  
まだ忘れることができないでいる

きつと

この先もずっと忘れることはないのだろう

## 優良賞

### 一瞬

結城中学校 二年 高木 晴太

一瞬は一つの作品だ。

そこらの中学生が言った。

空の雲だって。

優勝が決まったときだって。

ワッと驚かされたときだって。

火花が一つのキャンバスに散るときだって。

今この詩をかいてるときだって。

何かを感じたその時だって。

彼が見てはいけないものを見たときだって。

推理小説ですべての謎が解けたときだって。

誰かが恋に落ちてしまったときだって。

この詩を今見ているあなたの顔だって。

何もしてないときだって

常に一瞬が過ぎ、一つの作品になる。

そして最期に自ら一つの作品になる。

まるで歴史ある作品展に幕を下ろすように。

優良賞

カラフル

結城東中学校 二年 服部 希乃花

人ってカラフル  
赤色に青色に黄色  
黒色に金色に銀色  
沢山の色であふれてる  
けれど透明な人もいる  
色のない人  
でもある日色がついた  
かわいらしい桃色  
自分の色を見つけて  
とても楽しそう  
隣の人も  
前まで透明だった  
けれども色がついて  
その人も桃色だった  
とても楽しそう  
けれどもその様子を見ていた一人  
どんよりとした青色だった  
前まで桃色だった人  
とても悲しそう  
けれどその人を見ている一人  
赤色だった  
情熱の赤  
元気づけようとしてる  
人ってカラフル  
色が変わるときもあるけど  
こーやって元気づける人もいる  
透明な人がへるように  
皆で色をつけていこう

優良賞

風の知らせ

結城中学校 三年 山中 博人

春風を感じた  
とても強かった  
とても荒々しかった  
今年の風は一人で感じたせいだろうか  
今まで気にしもしなかった。  
寝ている虫たちを目覚めさせるため  
だろうか  
夏のダラダラした  
けだるい風とも  
秋のカラカラとした  
さみしい風とも  
冬のピリピリとした  
痛いような風とも  
ちがう。  
荒々しく力強さのなかにも  
意気揚々と春の訪れを知らせている  
スタートの合図を送ってくれたように  
感じた  
僕も始めなければ

優豆賞

ひいおばあちゃんの声

結城南中学校 三年 伊藤 美空

学校生活十二年間欠かさず聞いてきた  
ひいおばあちゃんのおかえりなさい  
ガシヤンと自転車の音  
縁側から顔を出すひいおばあちゃん  
桜が咲く春も  
蛙が歌う梅雨も  
セミが鳴く夏も  
紅葉が散る秋も  
雪が積もる冬も  
毎日笑顔で変わらない  
そんなひいおばあちゃん  
あと少しで百歳  
聞くと落ち着くその一言  
ずっと聞いていたいその一言  
いつまでも聞き続けたい  
だから毎日を大切に  
長生きしてねひいおばあちゃん

優豆賞

夏と私

結城南中学校 三年 岩岡 日捺乃

私は麦わらぼうしをかぶり外に出た  
周りにはひまわり畑が広がり  
ワンピースが風でなびく  
太陽が私をこをてらしてる  
まるでやあとやっているかのように  
ひまわりが私にあいさつをしている  
私は笑顔であいさつをかえした  
ひまわりはうれしそうに左右にゆれた  
強い風が吹き  
麦わらぼうしがとばされた  
まるでバイバイとっているかのように  
太陽のもとへさっていった  
とてもうれしそうに  
私はそれをじっと見つめた  
バイバイ

## 優良賞

### 夜明け

結城南中学校 三年 高野 七海

朝五時。

カーテンを開けたら、夕方よりはあかくない  
やわらかい空がある。

草木が静かに息をしている。

液晶には寝ている間にたまった通知。

からからに渴いた喉。

私しか起きていない時間。

そう思ったけど、音がする。

朝刊を届けるバイクの音。

じいちゃんが畑に行く軽トラの音。

遠くで鳴くかえるの音。

屋根にいるすすめの声と足音。

あと一時間もすればみんな起きだす。

それまでは私だけの時間。

朝五時が好き。

静かで、このまちを感じられる五時。

## 優良賞

### 人間の目にうつるもの

結城東中学校 三年 香林 秀喜

人の目にうつるものは不思議である

見るだけで心が穏やかになるもの

見るだけであこがれるもの

見るだけで勇気がもらえるもの

人の目にうつるものは不思議である

見えているのに消えてしまうもの

見えているのにとどかないもの

見えているのにぎれないもの

人の目にうつらないものもある

見えていないのに安心するもの

見えていないのに実はそこにあるもの

見えていないのに伝わるもの

人の目にうつるものうつらないもの

どれも感情をもっている

優良賞

私の痛みこせし

結城第二高等学校 一年 木代 ゆらん

今日も腰が痛い  
 昨日も痛かった  
 明日も たぶん痛い  
 少しの間立っているだけでも痛い  
 歩いていても痛い  
 座っていても少し痛い  
 ズキズキ  
 キリキリ  
 骨が軋むような鈍い痛みが  
 いつも私に付き纏っている  
 横になれば  
 骨が軋み やがて ずれる  
 ゴキ  
 こんな体に産んだ母を  
 憎んだことさえあった  
 ままごめんね  
 どうして私なの？  
 なんにも悪いことしてないのに  
 どうしてどうしてどうして  
 毎日思う  
 だが私は  
 死にたいと思ったことなど一度もない  
 だってこの痛みは私の個性だから  
 今日も私は  
 この痛みと生きていく

優良賞

私がつきものじよ

結城第二高等学校 一年 橋本 華弥乃

私は周りの人とは違うのか  
 とときどき思う  
 毎朝ボランティア  
 花の水やり  
 トイレレットペーパーを三角に  
 嫌いな授業なんてひとつもない  
 どんな話にも興味を持てる  
 メモだらけのプリント  
 障害、性別  
 一ミリも気にしない  
 どんな人にも声をかけられる  
 そこで私は思った  
 私は人を笑顔にすることが好きなんだ  
 みんなの悩みを解決させたい  
 でもそこに足を踏み入れると  
 相手を傷つけてしまうかもしれない  
 だから私は  
 毎日笑顔でいよう  
 ささいなことでも楽しんで  
 そしたらきっと相手も笑顔になる  
 私は周りの人とは違うのか  
 それは違う  
 きつと大切な個性なんだ  
 人を笑顔にしたい  
 難しいかも知れないけど  
 心の底から元氣になってもらいたい  
 こんなふうに思えるのも  
 神様と家族のおかげだ  
 この世に生まれてくれたことに  
 私はとても感謝している

## —新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西條八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩う・メール」を創刊。  
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念  
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞  
JR 賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。  
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業  
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

## —新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

**【目的】** 結城市出身の詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

**【募集作品】** 自由題の未発表詩

**【応募資格】** 結城市在住、在学の小・中・高校生

**【選考】** 選考委員長 新川和江（第1回～第10回）  
武子和幸（第11回～）  
（一社）日本詩人クラブ元会長  
茨城県芸術祭文学部門実行委員長  
選考委員 関 和代・山中 和江・吉田 峰代（センダンの木の集い）

### 【経過】

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催  
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）  
●募集作品：「私<sup>わたくし</sup>が大人になったら」・「私<sup>わたくし</sup>のふるさと」のいずれかを題材とする  
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生  
●最優秀賞：「わたしのふるさと」  
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）  
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校 2 年）

- 平成 24 年度（2012） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「日記詩」<sup>にっきうた</sup> 海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 24 年度（2012） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度（2013） 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈（結城東中学校 2 年）
- 平成 26 年度（2014） 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂（山川小学校 2 年）
- 平成 27 年度（2015） 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依（城南小学校 3 年）
- 平成 28 年度（2016） 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥（結城小学校 6 年）
- 平成 29 年度（2017） 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太（城西小学校 5 年）
- 平成 29 年度（2017） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」10 周年記念誌発行
- 平成 30 年度（2018） 第 11 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「あっ来た。ヤモリ」 永井 心海（山川小学校 2 年）
- 令和 元 年度（2019） 第 12 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「おばあちゃん家」 湯本 有紗（結城南中学校 2 年）
- 令和 2 年度（2020） 第 13 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「いいかおり」 坂本 七海（結城第二高等学校 1 年）



# 花の名

新川 和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじー

花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が

やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげににっこりするよつに

わたしは発音はつおんするのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして わくら……

